

「地域の医療体制維持に向けて、現況の分析と負担のお願い」

●医療体制の崩壊

マスメディアは1999年の横浜市立大学の患者取り違え事件以後、医療事故を熱心に取り上げましたが、その論調は、医療機関に厳しいものでした。その結果、不可抗力によるものであっても、期待した結果が得られない場合、医療機関に何らかの問題があるに違いないと医師や医療機関を攻撃する風潮が生まれました。

しかし、その後、地域での救急医療において、患者が受け入れ拒否されたのではなく、救急施設が受け入れたくても受け入れられない事情があることが認識されるようになります。つまり、医療体制崩壊は、医師の素養や病院の経営上の問題ではなく、医療体制を形成する基盤となる制度や診療報酬といった仕組みに問題があることが次第に浸透します。勤務医の過重労働や国レベルでの医師不足などが論じられ、20年以上続いた医療費抑制政策が転換される気運が生まれました。

そこに、医療に財源を付けるマニフェストをうたった民主党が大躍進を遂げ、政権交代が起こりました。そこで、今年4月の診療報酬改定では、医療費全体を底上げし、特に急性期の病院に手厚い改定が期待されていました。この原稿を書いている12月中旬時点では、財政再建を優先させる立場の財務省から、医療費総枠をアップできる状態ではなく、むしろ数パーセントの削減が要望され、厚労省との間で激しい攻防が行われています。

●専門職の現況

現状を振り返ると、一番の問題は救急や産科・小児科に限らず、急性期の治療を行う病院での診療が、技術者不足などの理由で十分に行えなくなっていることです。これは、医師・看護師などの勤務者に業務上大きな負担が集中したために起こっています。一人でも退職すると、残った人員にますます業務が集中し、その結果、病院として、診療を制限したり受け入れをストップしなければならない事態につながり、医療崩壊となるのです。

入院や手術を担当する専門職の業務内容の変化について、昔と比較すると、最近では、治療の内容や他の選択肢、起こりうるリスクなどの説明に時間をかけます。その上で、ご本人やご家族が主体となって方針を決定できるよう医療者がサポートすることが推奨されています。そのために時間がかかり、多くの書類を作成しなければなりません。麻酔に関しても多くの説明とそれを理解していただいたかどうかの確認、リスクを理解した上での同意など、さまざまなステップを踏み、多大な時間と労力を必要とするようになりました。

手術では内視鏡などの精密光学機械を活用するようになり、精度の高いメンテナンスが要求されています。入院期間は短くなり、手術後早期に退院されることから、急性期施設の病棟入院患者は、手術直前か、手術直後の方に限られるようになります。つまり、密度の濃いケアや看護が要る方ばかりです。病棟は毎日新しい入院患者さんや手術後の方の医学的管理や療養上のお世話でこた返すような忙しさです。

●価格据え置きでは、維持できない

それでいて、入院によって請求する医療費は対応して上がっているわけではありません。患者さんつまり、国民にとって、同じ買い物をするなら安い方がよいと考えられるのは当然だとは思いますが、これまでは、価格が据え置きのまま、現場の持ち出しによって、何とか維持されてきたのが日本の急性期医療の現況だと思えます。公立病院は、多額の繰入金(補助金)で、その赤字を埋めようとしてきました。それだけ税金を突っ込んでも自治体病院は十数パーセントの赤字を毎年積み重ねています(医療経済実態調査より)。税金を払うどころではありません。税金をつぎ込むだけつぎ込んでもその状態です。つまり、構造的に、急性期の治療は赤字となるようにできているとも言えます。

そして、民間病院でも急性期治療を行う施設は他部門での収益を回して運用してきました。それが立ちゆかなくなっているのが現在の地域の医療体制崩壊の一因だとすれば、費用をつぎ込むしか方策は残されていないと私は考えています。つまり、国民がどうしても費用負担を避けてほしいなら、現行の医療体制を保持することは困難で、質を下げるか、受診機会を制限する方法を取らざるを得ないでしょう。

●良質の医療を行うために

急性の時期から徐々に回復していく過程における医療は、ロボットに代替わりをさせ省力化を図ることは不可能です。人が困っている状態に対して、知識と経験を持って対峙し、効率よく診療機器や専門職種を活用して対応していくのがこの時期のケアです。有能で経験を積んだ複数の人間のチームによる対処なしでは成し遂げられないサービスです。この値段があまりに安く抑えられてきました。高い技術を持つ専門職としては不当な評価に甘んじてきたということです。

診療をしていると、健康食品やサプリメントはどうかと相談を受けますし、街のマッサージ、整体院での施術など、保険対象以外の対応で改善しなかったと受診される方のお話もよく伺います。そうした民間療法にいかにか多額の費用を負担されているか、驚くことがあります。逆に言えば、私たち専門職種が複数でチームになって対応する医療費がいかにか安いのか、情けない思いがします。これまでの制度があまりによくできており、負担が少なく設計されてきたためか、医療現場での支払いについての苦情が後を絶ちません。

質の高いサービスを今後も継続して受ける体制を整えるためにはどうしても必要な経費と考えていただきたいと思います。良質のケアを、持続性を持って提供するために、負担を増やす以外の方策はないことをご理解いただきたいと、私は考えています。

今年4月の改定で、どのような内容となるか、現時点ではまったく予測できないのですが、私自身としては、良質の医療を行うための最低限の費用負担は保険料や税として国民の皆さんに承服していただきたいと願っております。 島田病院 院長 島田 永和



面会時間について

平成21年11月1日より、入院患者さまへの面会時間を変更させていただきます。

変更前 11:00～20:00 ▶ 変更後 14:00～20:00



入院期間中、患者さまにはできる限り治療に専念していただきたいと考えております。そのための規則正しい生活環境作りにも、ご協力をお願い申し上げます。

診療管理部

冬の健康に関して

冬に注意しなければいけない主な健康ポイントは、①運動不足・年末年始の過食による肥満 ②空気の乾燥による肌荒れ・ドライアイ ③寒さによる血圧上昇 ④ノロウイルスによる食中毒 ⑤風邪・インフルエンザなどがあげられます。

その克服方法として、①規則正しくバランスのよい食事を摂ること(朝食をしっかり食べて体を目覚めさせる、ショウガ・ニンジン・タマネギ・唐辛子などを食べて基礎代謝を上げる)、食べ過ぎない・飲み過ぎないこと、こまめに運動や体操をすること(かかとの上げ下げ・掃除・散

歩など)、戸外で運動する時は十分なウォーミングアップ及び帽子やマスクを着用しましょう。②加湿器を使う ③トイレや洗面所で小さなヒーターを使う・風呂は早めに入れて浴室を温めておく・服装は軽くて暖かい素材の肌着やウエアがおすすめ・寝る前に寝室を20度前後に温めておく・パジャマや寝具も温めておく、など ④あたたかいお湯で手洗いをこまめにする、生ガキに注意 ⑤マスクの着用・うがいの励行、がポイントかと思われま

内科医長 植田秀樹

皆様のご参加を、
お待ちしております。

ヴィゴラス教室の案内

～春に向けての健康づくり教室～

ご自身の健康の維持・増進(痩身・メタボ予防)を
されたい方必見の教室です。

日 程：平成22年2月23日 3月2日・9日(火)
全3日間

時 間：15:00～16:30(90分)

場 所：はびきのヴィゴラス

対象者：医師から運動制限されていない方

参加費：3,990円(税込)

※1日だけの参加でも全額徴収させていただきます。

定 員：先着15名(要予約)

※お申し込みが2名以下の場合は、中止とさせていただきます。

お申し込み

- ①はびきのヴィゴラスに直接お申し込み
- ②電話またはFAXにてお申し込み

※お問い合わせは島田病院地下1階
はびきのヴィゴラスまで

TEL/FAX 072-953-1007

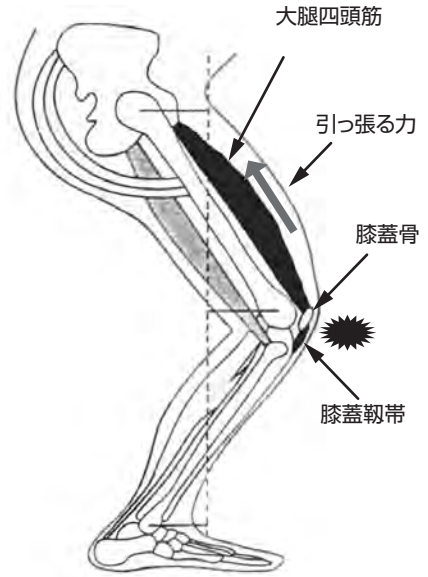
E-mail vigorous@heartful-health.or.jp

膝のスポーツ障害 ～ジャンパー膝～

はじめに

ダッシュやストップ、ジャンプなどを繰り返す競技では、膝の前面に負担が集中し、「ジャンパー膝」と呼ばれる障害を引き起こします。

この状態は、動きのスピードや方向を変えるフットワーク動作を繰り返すことで、太もも前面にある大腿四頭筋に負担が集中して、お皿（膝蓋骨）やその下の腱（膝蓋靭帯）に炎症が起こるため発生します。（右図）



原因(例)

①筋肉や関節の柔軟性不足

大腿四頭筋が硬いと、運動時に筋肉・腱が引き伸ばされる力が部分的に集中して、ダメージを受けやすくなります。また、脚の関節（股・膝・足関節など）についても、動く範囲が狭いことによって、適切な姿勢や動作がとれずに筋肉や腱に負担をかけることがあります。

②身体の使い方(フォーム)

不適切な身体の使い方についても、身体のどこかに負担が集中する原因となります。ジャンパー膝の場合は、膝を内側へ入れたり、前へ突き出したりする動作などで、お尻や太もも裏の筋肉が上手く使えないことから、膝の前面に負担が集中します。

予防方法(例)

①筋肉・関節の柔軟

各運動を10～20秒かけてじっくり伸ばして下さい(左右3回ずつ)

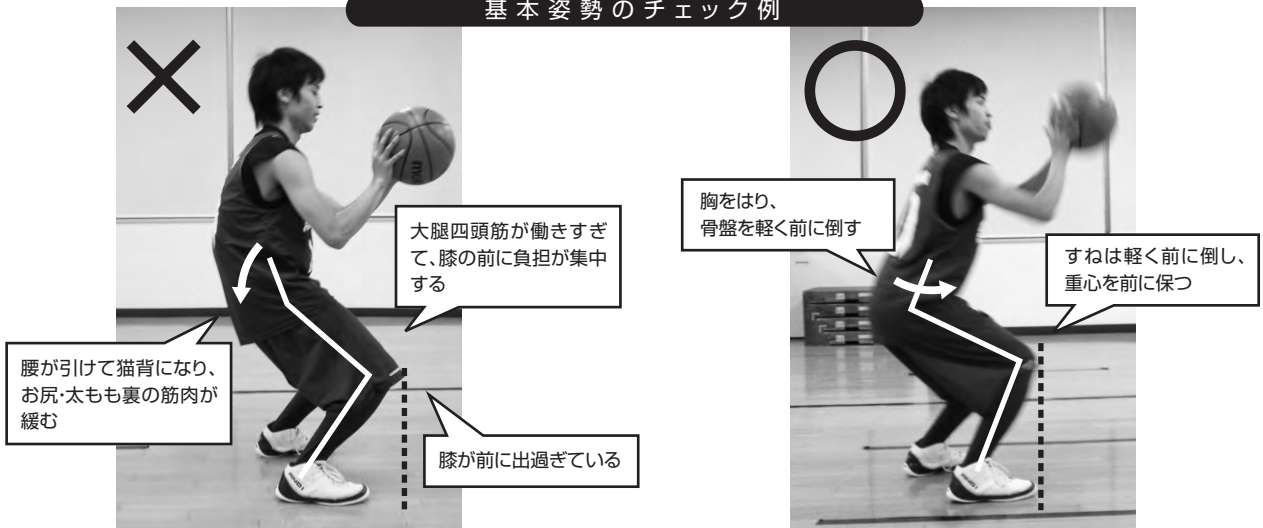
 伸びる部分



②身体の使い方をチェック

バスケットボールの基本となる姿勢に「パワーポジション」があります。この姿勢は、身体への負担をうまく分散することで障害予防となり、ポディーコントロールが高まることで、パフォーマンス向上にも効果があります。

基本姿勢のチェック例



はあとふるグループ 使命

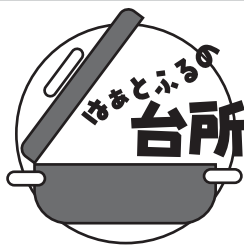
私たちは、良質のヘルスケアサービスを効率よく地域の方々に提供し続けます

はあとふるグループ 理念

私たちは、その人がその人らしく自分の人生を全うすることを心(Heart)と技術(Hands)で支援します

島田病院 理念

人間愛と確かな技術に基づき信頼でつながるチームで、安全に、心に届くサービスを提供します



台所 食事バイキングを開催しました!

入院患者さまは、管理栄養士の管理の下、栄養バランスの整った食事を召し上がって頂いております。栄養管理課では、入院中の患者さまに少しでも「栄養」について考えて頂き、健康の自己管理の為に役立てていただける機会を設けたいと考えました。

そこで、栄養教育と食事満足度の向上を目的とした「食事バイキング」を11月に開催しました。その内容と、その後調査したアンケート結果(回収率61%)の一部を報告します。

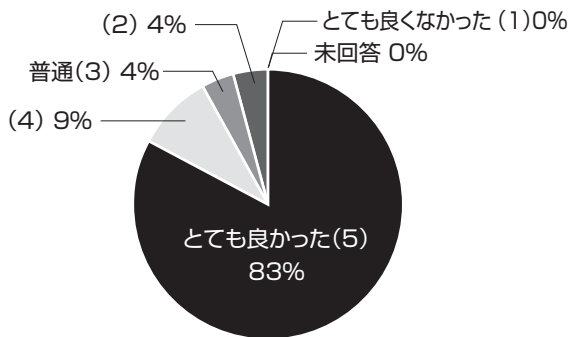
バイキングメニュー

- 松茸土鍋ごはん
- 鮭のちゃんちゃん焼き
- スペアリブの煮込み
- 秋なすの煮浸し
- 蓮根入り金平ごぼう
- パプリカサラダ
- 汁そば
- 大学芋
- 海老シュウマイ
- 串カツ
- ケーキ
- みかん

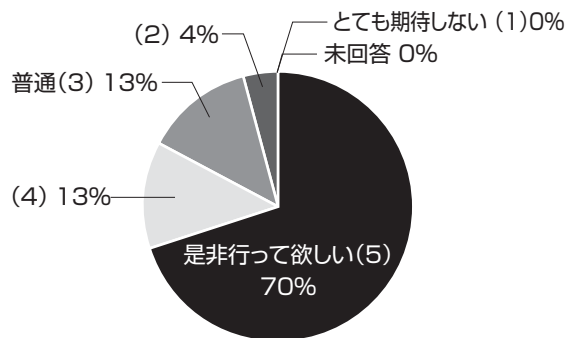


必要な栄養量を、
栄養バランス良くなるよう、
メニューを
選んでみよう!

食事バイキングはいかがでしたか? (5段階評価)



今後もバイキングを期待しますか? (5段階評価)



12種類のメニューの中から、患者さまご自身で、栄養成分の表記を参考に組み合わせて頂きました。厳しい栄養管理が必要な患者さまは、管理栄養士とともにメニューを選択して頂きました。

当日限りの新メニューを多く取り入れ、松茸ご飯は、特別に土鍋で炊きあげるなど、通常のお食事とはひと味違うものに仕上げました。アンケート調査では、「松茸土鍋ごはん」「スペアリブ煮込み」「串カツ」が特に「おいしかった」という意見を多く頂戴しました。

今後は、より分かりやすい栄養成分表記に工夫し、よりスムーズにバイキングができるように努め、患者様にご満足いただけるお食事と栄養教育を提供できればと考えています。アンケート調査にご協力頂き、ありがとうございました。

島田病院では、このニュース・レターが病院と患者さまを結ぶコミュニケーションツールとなるよう願っています。ぜひ、みなさまからのご意見、ご感想を館内各所に設置している「さくぞう君(ご意見箱)」までお寄せください。

医療法人(財団) 永広会 **島田病院**

〒583-0875 大阪府羽曳野市榎山100-1
TEL 072-953-1001 FAX 072-953-1552

予約専用電話
TEL 072-953-4891

ホームページ <http://www.heartful-health.or.jp>

